

## 令和2年度 事業報告

### 1 概要

令和2年度における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴い、年前半に、最初の緊急事態宣言が発令され、経済活動も大幅に制限されるなど景気は急速に悪化しました。年後半には、外需の回復や緩和的な金融環境、経済対策効果に支えられて緩やかな景気回復の兆しが見られたものの、引き続き世界経済の不確実性が懸念される中、年明け早々に二度目の緊急事態宣言が発令され、現在、三度目緊急事態宣言が発令されており、依然として先行き不透明な状況が続いています。

特に、飲食業、小売業などの非製造業においては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休業や営業時間の短縮、イベントの中止などによる客数の大幅な減少やインバウンド消費の激減などにより、前年実績を大幅に下回る状況が続いており、過去に経験したことが無い極めて厳しいものとなっています。

3月期決算の上場企業について全33業種のうち陸運、空運など14業種で赤字もしくは減益となっており、非製造業での苦境が顕著で、米中の需要回復を取り込んで好調な製造業との二極化が鮮明となっています。

各企業では、依然として、いつ事業活動を本格化できるのか見通せず、多くの企業が来期の業績予想を未定としながらも、ワクチン接種の進展による下期の業績回復を期待し、生産や販売の正常化は10月～12月期以降との見方をしていますが、現時点では、不透明感が強く懸念されています。

早期の新型コロナウイルス感染症の収束により、大企業だけでなく当財団の主要顧客の中小企業にまでも波及効果がおよび、雇用や個人消費の伸びに繋がっていくことを期待したいと思います。

一方、令和2年度における、シルバー事業の売上げは、公共部門は、約2億4,361万円で対前年比約107.8%と前年を上回る売上げを確保できましたが、民間部門については、前年を下回る対前年比約97.0%の約4億6,130万円となりました。全体売上げは、約7億491万円で対前年比約100.5%と前年を約330万円上回る売上げの確保ができました。

経常利益については、昨年は、草刈りや剪定の最盛期となる夏場から秋にかけて、一昨年までは、頻繁に発生していた地震や豪雨、大型台風などの天変地異や気候変動が無く、一年を通じて穏やかな気候となったことが幸いし、上半期からほぼ前年並みの売上高を保ったまま、下半期においても順調に推移し徐々に売上げを伸ばし、特に、年後半の剪定、草刈りによる売上げの上積みと派遣事業の伸びによる利益の確保とともに経費縮減による固定費増加の防止などにより、通期では、昨年度を約2,305万円上回る約6,446万円の大幅な黒字の確保となりました。

会員数の増強については、本年度は、対前年比約95.7%の1,520人と昨年度比べて大幅な落ち込みとなりました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、例年10月に実施している岡山駅前でのキャンペーン活動の中止、支部での入会説明会やその他の会員増強運動などを中止や制限せざるを得なかった影響が出ているものと思われます。しかし、特筆すべき点として、会員を退いた後の特別会員としてシルバーに残られる方が、従来の5～6人程度から13人に大幅に増え、仕事だけでなく、生きがいや仲間づくりの場としてのシルバーが認識されて来ているものと思われます。

また、懸案の安全就労については、傷害事故は、昨年度に比べ4件も減少しており、重篤な事故もありませんでした。年後半に試験的に取り入れた植木剪定での監視員制度も事故の抑制に効果があったものと思われます。賠償事故は、カルマー使用の普及

などにより、飛び石事故が減少傾向となっています。しかし、依然として、年末の10～12月にかけて、カルマーを使うべき場所にカルマーを使用しなかったことによる飛び石事故が多発しています。そのため、緊急の班会議や研修会等による啓発や安全パトロールの強化に努めたことにより、事故件数及び事故内容ともに、好転した昨年並みに推移しました。

## 2 安全就業の徹底

安全就業を最重要課題として、「安全はすべてに優先する」ことを念頭に、就業中や途上の事故、損害賠償事故ゼロを目標に掲げ、安全・適正就業委員会を中心として、安全パトロールの強化、植木剪定での監視員の配置、新人研修の徹底、カルマー(草刈機)研修会等を実施しました。新人研修では、就業時に事故の多い剪定作業や草刈り作業での事故例を示し、会員に対し安全意識と自己の健康管理の高揚に努めました。その結果、傷害事故は16件で前年度比4件減少しました。賠償事故は8件で前年度比同数でした。次年度は、更なる安全就業の徹底を図ります。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会員にフェイスシールドの配布などにより、その対応を図りました。

## 3 適正就業の徹底

既存の請負・委任業務の再点検と必要に応じ「労働者派遣事業」への切り替え等の対応を行い、適正な就業形態に向けた是正措置を継続的に行いました。また、複数の会員によるローテーション就業の促進、長期就業の解消などのワークシェアリングを推進し、より多くの会員への就業機会の確保に努めました。

## 4 新規事業の受託等

市の福祉施策の実現に寄与するため、前年度に続き子育て支援に資するシルバー世代産前産後応援事業を行うとともに、平成29年度から始まっている介護予防・日常生活支援総合事業を行いました。

### (1) 介護予防・日常生活支援総合事業

総合事業では、要支援1, 2の認定を受けた人と事業対象者の人に生活支援訪問サービス(掃除・洗濯・調理・買物等の家事)を提供し、受注件数48件、契約金額4,963,938円の実績となりました。

### (2) シルバー世代産前産後応援事業

子育ての経験の有する会員が、育児・家事援助を必要とする産前産後の世帯について、支援員として家事、育児のサービスを提供し、延べ利用回数902回、延べ利用時間は1,648時間、契約金額1,512,864円の実績となりました。

## 5 財務体質の健全化と業務の円滑化

シルバー人材センターの厳しい財務状況を踏まえ、引き続き事務の合理化等による事業経営の健全化を推進し、財務体質の強化と業務の円滑化を進めました。

### (1) 運転資金の確保と財務体質の強化

継続就業の場合、翌月3日までに就業報告書を提出、10日までに発注者に請求書を送るサイクルを徹底し、未収金の早期回収に努めました。また、未入金が発注者への直接訪問及び内容証明郵便による督促など未入金の発生を防止するための対応に努めました。

### (2) 新たな就業開拓

民間企業を訪問してセンター事業の説明を行って、就業機会の開拓に努め、労働者派遣

事業などの多様な就業形態に対応しました。また、市役所等に働きかけ、受注確保に努めました。

### (3) 適正な就業機会の提供

会員の就業のミスマッチを解消するため、各支部に対応して設置した事務所・出張所が会員の希望や資格等を把握し、さらに、他部門でも可能であれば就業機会を広げて就業可能な会員を把握するなど、詳細な情報取得と登録会員への効率的な就業機会提供に努めました。また、未就業会員に対しては、毎週水曜日に就業相談日を設けているので、就業相談に参加してもらい、早期の就業先提供に努めました。

## 6 会員数の拡大の推進

会員増強委員会を中心に、「会員一人が1人の会員を」の目標を掲げ、会員増強活動を行っていますが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年10月に実施している岡山駅前での会員増強活動は中止、また各支部で予定していました、出張入会説明会やその他の会員増強活動も中止や制限せざるを得なかったこととなり、積極的なPR活動は行えませんでした。しかし、各支部役員が中心となり、一般家庭へチラシの配布を行い、会員の拡大と就業機会の開拓に努めました。このような厳しい状況もあり、全体の会員数は、1,520人となり、68人減少し、前年比95.7%となりました。登録会員の平均年齢は、74.4歳で前年度より0.8歳高くなりました。

## 7 シルバー人材センター事業の普及啓発活動の推進

市民と地域社会にシルバー人材センター事業を広く周知し、事業の発展・拡充を図るため、さまざまな機会を通じて普及啓発活動を行いました。

- (1) センター機関誌、リーフレットなどを発行し、会員、関係機関に配布し、シルバー事業への理解と協力を得ることに努めました。
- (2) 市広報紙に記事を掲載するとともに、報道機関などに適宜情報を提供し、シルバー事業のPRに努めました。
- (3) 行政機関と連携し合同説明会に参加し、当センターのチラシ、パンフレットを配布し、シルバー事業のPRに努めました。

## 8 労働者派遣事業の就業機会の確保・拡大

企業等において、社員との混在就業や指揮命令下での就業が可能な「労働者派遣事業」の拡大に努めて、新規の顧客も獲得でき、契約金額、件数ともに順調に推移し、契約件数192件、契約金額139,454,054円の実績となりました。

## 9 技能講習・研修会の充実

各種講習会を会員対象と一般市民に参加頂ける内容で、植木剪定講習会、飛散防止に効果的なカルマー（草刈機）講習会等の充実を図り、会員の技術・技能の向上と後継者の育成、さらに、新規会員獲得に努めました。

## 10 情報の収集

シルバー事業の充実、発展を図るため、研修会などを通じ、県シルバー人材センター連合会の主催する会議に出席し、連携、交流を深め、また、シルバー事業の活動状況の調査、情報の収集に努めました。